

皆様おはようございます。

先週は比較的穏やかな1週間であったように思います。しかし今週の半ばから来週にかけては毎日寒い日々となりそうです。どうぞ皆様ご健康にはお気を付けください。キャンドルの日も三つ目が灯りました。いよいよクリスマスは再来週です。

今日はマリヤへの受胎告知の出来事です。

喜びの内に御言葉を読み進めます。

ザカリヤの出来事としばしば比較されるマリヤへの天使からのみ告げです。

ザカリヤは祭司でしたが、マリヤは寒村の一少女でした。

しかしざカリヤは天使の出現の時、「おじ悪い、恐怖の念に襲われ」ましたが、マリヤは恐怖の念というよりも心に混乱を生じましたが、それは突然の挨拶の意味を深く心にめぐらし、正しく理解したいという心の現われでした。

1:26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。

27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。

28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思ひめぐらしていた。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」

今日はこの御言葉の意味を深く考え続けたいと願っております。

どうしてマリヤが恵まれた女性であったのか。主があなたと共におられるとはどういうことなのかを考えたいと思います。

30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

ザカリヤの時もそうでしたが、遠大な未来物語の披歴です。次々と、想像もしないことが、

想像もつかないスケールで起こります。しかも、その出来事はどこか遠くかなたで起こることなのではなくて、この私に対して起こることであると聞かされでは、唯々驚くばかりで実感がまるで持てません。こうしてザカリヤは、この実感が持てず、自分も妻も年を取っているせいもあり、「どうしてそんな事が、わたしにわかるでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」と言ってしまいました。そんなことがこの状況の中で起こるはずがないではありませんかと語ってしまいました。

私たちはいびつでへんてこな存在です。将来に大きな期待と希望をもって祈りながらも、いざそれが叶えられるという、その大きな喜びの知らせが来たと思えば、あんなに願っていたのにあり得ないとか、時すでに遅しなどと言ってせっかくの喜びの実現を喜ぶことが出来ないのです。いつ、どんな方法でということを神様は考えていて下さっておられたのです。ずっと、ずっと、私たちの祈りのために、神様は私たちを喜ばせようとしてずっとその時と方法を考え続けていて下さいました。しかし祈った当の本人である私たちが、そのことを既に忘れていたり、とっくに諦めて神様を恨んでいたりと様々なのです。そして神様は私たちが祈ったとおりに、もしくは祈ったこと以上に確かに力強く信じて祈ることが出来る人はどれほどいることでしょうか。

マルコ 11:22 イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。

11:23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。

11:24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

私は、ザカリヤとマリヤとを分けたものは、この祈りであったのではないかと考えるのです。

30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

信頼する祈り手にも恐れが去来します。いつ、どのようにということが分からぬ中、いつまで待つか、どのように祈りがかなえられるのかということは一切知らされず、それは果てしない忍耐のトンネルの中にあるようです。しかし、聞かれる祈りの祈り手は、何でも祈り求めることはすでに聞かれたと信じて祈る祈り手です。そして、この天使のマリヤへの言葉は、マリヤが神様に何を祈っていたかを知る手掛かりになるものと思います。

32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

民はイスラエルの解放と救いを待ち望んでいました。長年の間、預言者は途絶えていました。実に400年の間です。この間にイスラエルは大国の間にあって翻弄され、この時にはローマ帝国の属州としての苦しみと悲しみにさいなまれていました。しかしマリヤはさらに深いところの救いを求めていました。そこには不平等がはびこり、公正がないがしろにされ、貧しい者が虐げられ、強い者がほしいままにふるまっていました。神様の国であるのに、どうして公正がないがしろにされ、民は神を畏れる心を失ってまるで神がないかのように欲しいままにふるまうのか。マリヤの痛みと悲しみはそこにあり、彼女の祈りはそこにありました。

私たちの祈りはどこにあるでしょうか。

1 ヨハネ 5:14 わたしたちが神に対している確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さることである。

5:15 そして、わたしたちが願い求ることは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである。

ローマ 12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき靈的な礼拝である。

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

マリヤはこの深い祈りを捧げていました。自分の為だけではなく、周囲の人たちのため、國のため、世界のために彼女は祈り続けていました。

そして神様は、その祈りに答えて偉大なる王でありメシア救い主であられる方を世にお送りになりました。

32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

1:34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。

これは祈る彼女の祈りの言葉です。どうやったらそのような素晴らしいことが起こるのでしょうか。起こり得ない状況なのに。しかし、起こりえなかったとしても、神様は起こるようにして下さるに違いありません。そうであれば、一体どのような方法で神様はそれをお成し遂げになられるのですか。

これが私たちの祈りです。

そんなことは起こるはずがないと切り捨ててしまっては、私たちの信仰がどこに行ってしまったというのでしょうか。私たちはイエス様のこの御言葉を思い起こしましょう。

ルカ 17:4 もしあなたに対して一日に七度罪を犯し、そして七度『悔い改めます』と言ってあなたのところへ帰ってくれば、ゆるしてやるがよい」。

17:5 使徒たちは主に「わたしたちの信仰を増してください」と言った。

17:6 そこで主が言われた、「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言ったとしても、その言葉どおりになるであろう。

マルコ 4:30 また言われた、「神の国を何に比べようか。また、どんな譬で言いあらわそつか。

4:31 それは一粒のからし種のようなものである。地にまかれる時には、地上のどんな種よりも小さいが、

4:32 まかれると、成長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほどになる」。

私たちは、自分自身が納得できないことは何も起こらないとの偏狭で頑固な考えに陥らないように気を付けましょう。

むしろ、どのようにしてそんな素晴らしいことが起こるのか、私には全く分からぬし、全く不可能のようにも見えるのだが、神様はそこに道筋をつけることがお出来になると固く信じ続けて行きたいと願います。

1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

1:37 神には、なんでもできないことはありません」。

「神には、なんでもできないことはありません」。「神には、なんでもできないことはありません」!! 古今東西、神様の素晴らしい不思議な御業の中にあって今日の私たちの生活があります。世の中は腐敗しきって、いまにも核ミサイルによって破壊しつくされるまさに前夜のように暗く、死のにおいが周囲を覆っているように思われますが、人の心の暗闇は留まるところを知らないほどに深いように思えますが、神には、なんでもできないことはありません。神様は恵みを与え、守りを与え、喜びを与え、救いを備えていて下さいます。

1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

マリヤは信じました。そして自分の祈りが聞かれたことを思い、世の救いのために自分の生涯をささげる決意をしました。そして御使いによる、神様の御言葉に従う決意をしました。

1:39 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、

1:40 ザカリヤの家にはいってエリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、

1:42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。

1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。

1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

御使いの話の中にあった、「あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。」との出来事を目の当たりにし、エリサベツのお腹の中の子が踊り喜んだことを聞き、聖霊に満たされたエリサベツが語った言葉、「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」との言葉に、マリヤの献身の思いは助けと励ましを得て強められ、神様への賛美は爆発しました。信仰の道は時には不安と恐れがあり、孤独がありま

すが、こうして聖靈溢れる信仰者の交わりの中で、信仰は助けられ、強められます。

1:46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、

1:47 わたしの靈は救主なる神をたたえます。

1:48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださいましたからです。そのみ名はきよく、

1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。

1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、

1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

マリヤは「わたしの魂は主をあがめ」と言いました。これは虫眼鏡や顕微鏡など拡大鏡で大きくするという意味です。普段見ることがなかったものを拡大鏡は如実に表します。そのように、彼女は今、神様を大きく、はっきりと眼前に見てています。

自分が身分の低い存在であって、社会での発言力もなく、そういう低きものを、「心にかけて下さる」というこの言葉は、大切に、尊敬して、敬意をもって配慮と世話、手入れをし、扱い、注意し、用心し、心遣いをして下さるという意味です。

神様が私のようなものを選んで、わざわざ用いてその力強き、何百年、何千年、何万年にもわたるその救いの御業のために私を尊く用いて下さるという感謝と驚きがここに読み取れます。それが今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、との言葉に現れています。

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださいましたからです。そのみ名はきよく、

1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。

1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、

1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

御使いが語る言葉はすべて未来のことが起こるという風に未来系で語られていましたが、ここでマリヤはすべてこれらのことを行なった形で語っています。つまり、もう既にこれらの救いは成就した、完了したと言って感謝しているのです。

先にエリサベツはこう言いました。

45 「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしよう」

この必ず成就するとは、未来形で書かれています。ですから、主が今語られたことは将来必ず成就すると信じた女性は幸いと言っているのです。

しかしマリヤはその上を行っており、彼女はそれらのことはすべて既に成就したと信じて神様をほめたたえているのです。

マルコ 11:24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

このイエス様のお言葉の素晴らしさを教えられます。

マリヤはこの自分への神様からの働きかけの中、神様は祈りに答えて下さったと信じ切っています。今は道筋がまだつながっていないくとも、これから必ずつながって、神様の恵みがその道を通ってわき溢れ、伝わってくると信じたのです。

エペソ

3:12 この主キリストにあって、わたしたちは、彼に対する信仰によって、確信をもって大胆に神に近づくことができるのである。

3:13 だから、あなたがたのためにわたしは受けている患難を見て、落胆しないでいてもらいたい。わたしの患難は、あなたがたの光栄なのである。

3:14 こういうわけで、わたしはひざをかがめて、

3:15 天上にあり地上にあって「父」と呼ばれているあらゆるもの源なる父に祈る。

3:16 どうか父が、その栄光の富にしたがい、御靈により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、

ヘブライ 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

私たちもまた、マリヤと共に、世界の救いのために、祈る者でありたいと願います。そして神様からこの語りかけを受けるのです。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。あなたはこの世界の中に、私たちと共に近くいて下さり、私たちと共にいて下さるお方ですから、ありがとうございます。未来に起こるべき救いに対して固く疑わない心を持って祈り続ける人のためにはその祈りがかなえられることがあります。ありがとうございます。信仰により、「おめでとう、恵まれた方」と語りかけられる日を信じて祈り続けます。祈ったことはすでにかなえられたと信じて祈り続けることが出来るように私たちを強めて下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン